

コンセールによる ゴルトベルク変奏曲 リリースコンサート



ジュゴンボーイズ

山本徹 (5弦のチェロ)

根本卓也 (チェンバロ)

× 本村睦幸 (リコーダー)

2026年4月25日(土)

昼夜2回公演 昼 14:00 開演 (13:30 開場)

夜 18:00 開演 (17:30 開場)

《全自由席》前売 4,000円/当日 4,500円

2026年1月より予約受付開始

収益の一部を一般社団法人エル・システマジャパンに寄付いたします。

日本キリスト教団 番町教会・礼拝堂

千代田区六番町7-12/JR 四ツ谷駅 麴町口より徒歩3分



販売: ファインアーツミュージック株式会社

配信: ナクソス・ジャパン株式会社

WAONCD-620 オープンプライス

2026年4月発売予定

チェンバロのための独奏曲の中には、旋律楽器と通奏低音という形のアンサンブルで演奏するといった魅力的になる曲が少なくありません。クーペランの「恋する小夜鳴鳥」などがよく知られた例ですが、バッハの「2段鍵盤チェンバロのためのアリアと種々の変奏(通称:ゴルトベルク変奏曲)」の主題となる有名なアリアもそのようなアンサンブルにふさわしい作品です。続く30の変奏は、2段鍵盤チェンバロの特長を最大限に生かして書かれているため、アンサンブルに置き換えるのは一筋縄では行きませんが、オペラ指揮者、作曲家、チェンバリストという多彩な顔を持つ鬼才根本卓也が、それを見事なアンサンブル作品にしつらえました。チェンバロが全体の骨組みを作り、リコーダーが高音の旋律を奏でることに加え、チェロは時に低音を支え、時に入り組んだ内声をかけめぐり、時に高音の旋律をチェロの音色で歌います。全く音色の異なる3つの楽器のアンサンブルで演奏すると、複雑な曲の構造も明らかになり、これまでと違ったこの曲の素晴らしさを味わっていただけるはずです。どうぞご期待ください。

◆ 主催: 楽園委員会

◆ プロデュース: ジュゴンボーイズ & デ・ルストホフ

◆ お問い合わせ:

デ・ルストホフ lusthof.concerts@gmail.com

<https://mutsuyukimotomura.com/260425/>



◆ チケット取り扱い

楽園委員会 rakueniinkai@gmail.com

オフィスサワイ Tel: 03-5944-5157 info@officesawai.com

東京古典楽器センター Tel: 03-3952-5515

<https://teket.jp/15485/56932>



ジュゴンボーイズ

山本徹 Toru Yamamoto (5弦のチェロ)



© Shigeto Imura

東京藝術大学大学院古楽専攻、チューリヒ芸術大学修了。チェロを土肥敬、河野文昭、北本秀樹、鈴木秀美、ルール＝ディールティーンズの各氏に師事。東京藝術大学バッハカンタータクラブにて小林道夫氏の指導のもと研鑽を積む。2008年第16回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール第2位、2011年ブルージュ国際古楽コンクール審査員賞、ファン・ヴァッセナール国際コンクール優勝。2010年度文化庁新進芸術家海外研修員、2011年度ロームミュージックファンデーション奨学生。バッハ・コレギウム・ジャパン、オーケストラ・リベラ・クラシカなど主要な国内外のオリジナル楽器オーケストラのメンバーとして定期公演・録音・海外ツアーに多数参加する。根本卓也氏との「ジュゴンボーイズ」、また渡辺祐介氏らと創設した「オルケストル・アヴァン＝ギャルド」の理事および首席チェロ奏者、圓谷俊貴氏主宰「プロムジカ使節団」の首席チェロ奏者・インスペクターも務める。2006年に第2位受賞の国際古楽コンクール<山梨>では2017年に審査員を務める。東京藝術大学での集中講義「古楽器概論」、シンガポール国立大学音楽院でのマスタークラスなど後進の指導とオリジナル楽器の普及にも力を入れている。2025年4月より東京藝術大学古楽科講師。

<https://scordatoru.wixsite.com/toru-yamamoto>

根本卓也 Takuya Nemoto (チェンバロ)



東京藝術大学大学院修士課程(指揮専攻)修了。在学中に故・若杉弘氏に、英・独・仏・伊・羅・露・チェコ語に至るまで、あらゆる舞台作品を原語で解する類稀な才能を見出されて以来、新国立劇場オペラ部門音楽スタッフとして年間を通して公演に寄与する傍ら、東京二期会・OMF・ニッセイオペラなど、国内の主要団体で合唱指揮・ディクションコーチ・作品レクチャーなど多岐にわたり活躍。業界の屋台骨として欠くべからざる存在となっている。また、フランス国立リヨン高等音楽院で通奏低音のディプロマを取得。バロック・チェロ奏者山本徹とのデュオ「ジュゴンボーイズ」などでチェンバロ奏者として活動するほか、作曲家としての顔も持つ。これまでにオペラ2作品《景虎-海に消えし夢》(2018)《寡婦アフロディシア》(2021)、カンタータ《臨死船》(2016)ほか、声楽作品を中心に発表している。2024年1月には静岡県舞台芸術センター(SPAC)で舞台《ばらの騎士》の音楽監督を務め、新たな分野への挑戦も止むことがない。

本村睦幸 Mutsuyuki Motomura (リコーダー)



© StudioLASP

アムステルダム・スヴェーリンク音楽院卒。W.ファン・ハウエらに師事。アムステルダムを拠点とする十余年にわたる活動を経て、2001年に帰国。アルバム「無伴奏リコーダー600年の旅」に聴かれるように、14世紀から現代作品に至る広いレパートリーを持つが、近年は、バロック時代に特にリコーダーが楽器指定されている曲を、当時の楽器の特性を活かした演奏表現によって魅力を引き出すことに邁進している。その一端は「ナポリのリコーダーコンチェルト」や「リコーダーによるオトテル作品集」等で聴くことができる。その一方で、リコーダー以外の楽器のために書かれて、当時のリコーダーのリコーダー奏者が演奏していたとは考えにくい作品を新たなリコーダーレパートリーとして取り上げる試みも多い。「フランスバロック・ソナタの展翹」でのマレの〈マレ風ソナタ〉もその一例で、今回の〈ゴルトベルク変奏曲〉もそういう試みの一つである。これらのアルバムは、すべて各社の音楽配信サービスでも聴くことができる(Mutsuyuki Motomuraで検索)。

ホームページは、<https://mutsuyukimotomura.com/>

日本キリスト教団 番町教会・礼拝堂

千代田区六番町7-12 JR 四ツ谷駅 麹町口より徒歩3分

有楽町線 麹町駅5番出口より徒歩5分 JR市ヶ谷駅より徒歩10分

<https://bancho-church.jp/>



教会Webサイト



Googleマップ